

コ

する。園内所々に石を置き燈籠を配し、前方に銀松・木犀・木斛を、後方に赤松・樺・高野槇等を植ゑ、水畔と樹蔭に下草物を點じ、水流を有する平庭として清遠なる一型として推賞せられる。この建物及び庭園の一部は、昭和四年四月文部省から史蹟名勝天然紀念物法によつて指定せられ、十三年三月再び全建築を國寶に指定せられた。

(十一)公園兼六園は明治七年五月七日から石川縣の公園として公開せられてゐる。大正十一年三月文部省から名勝として指定せられた。

ケンロクエンキクザクラ 兼六園菊櫻 ↓
キクザクラ 菊櫻。

ゲンロクキユウセキシラベシヨ 元祿舊跡調書 一冊。領内村々の舊跡等を書上げしめたもので、巻初に加越能之内普儀共郡々致時味書上申帳とあり、巻末に元祿四年三月と記してある。

ゲンロクサンネンカナザハカサイキ 元祿三年金澤火災記 一冊。元祿三年三月十六日曉丑刻より巳刻まで、及び十七日巳刻より申下刻まで、兩度の火災に焼亡した家數、姓名等を記したものである。

ゲンロクシユウイ 元祿拾遺 一冊。江戸の俳人轍士著。元祿九年京井筒屋庄兵衛板。著者が先師梅因のあとを慕ひ、諸國を行脚して得た句を集めたもので、その中に加賀・能登も含んで居る。

ゲンロトウケン 玄路統玄 曹洞宗の僧。明峰素哲の法を嗣いで諸老を歴問し、加賀に永安寺を開き、明峰を仰いで第一世となし、遂にこゝに終つた。

コアカダニ 小赤谷 能美郡桑島の部落西方の溪谷で、その水赤谷のそれと合し、牛首川に注ぐ。

コアラシダキ 小嵐瀧 能美郡桑島(今桑島)の北方道路に沿ひ、小嵐橋より入ること一〇〇米、全山大岩壁をなす所に在る。上段は峽谷をなして望むを得ぬが、最後の一段は高さ三六米である。

コアラシダニガハ 小嵐谷川 能美郡桑島の部落から東北に當る溪谷で、その水牛首川に注ぐ。

コアラシヤマ 小嵐山 能美郡桑島の部落から東北に當る山。高さ一〇〇二米。地質侏羅系。

コアンキ 故案記 一冊。加賀の富樫氏が滅亡して、本願寺門徒が金澤御坊に據つた頃の、その黨の書簡などを輯録したものである。

ゴアンケンドウ 悟菴顯道 金澤曹洞宗寶圓寺廿二代の住持。越前の人。天明八年十一月伊賀天照寺から進山し、寛政元年八月十八日現任中遷化した。

コアンシカン 壺庵至簡 曹洞宗の僧。加賀の人。能登永光寺に於いて瑩山紹瑾に謁し、遂に法を嗣いで會中の主座となつた。後元亨三年同國光孝寺二代に住し、次いで永光寺五代に晋み、興國二年九月を以て光孝寺に寂した。

コイケ 小池 河北郡五ヶ庄に屬する部落。
コイケガハラ 小池川原 鹿島郡矢田郷に屬する部落。

コイケチキヨク 小池池旭 石川郡福留の人。初め紫雲と號し、又梅蔭女史ともいふた。江戸に出で、大沼枕山の義妹となり、書を以て諸國を遊歴し、戊辰の役には會津侯に従うて北下し、婦女隊に加つて戦ひ、後官軍に獲られたが許され、明治十一年參州豊橋に歿した。齡五十五。

コイケバイシヨ 小池梅處 通稱豊作・伯藏。諱は常行。餘樂の子。大聖寺に生まれ、後金澤に住し、南宗文人畫をかいだ。大正二年八十三歳を以て歿。

コイケヨラク 小池餘樂 大聖寺の人。初名米屋五兵衛。諱は常徳。關流の算學を西尾次郎右衛門一起に學び、その門下からは倉屋喜兵衛・三森虎吉を出した。明治十六年の火災に逢ひ、金澤に移住し、十九年七十六歳を以て歿した。

コイシ 小石 鳳至郡柳比庄に屬する部落。能登誌に、『饒石村といふは、劔地村より一里餘上にて、今は小石村といへり。』とあるが、この説は宗祇方角抄の今本に饒石川をオキシと傍訓したものがあつた、小石をライシと訓んで附會せんとするものであるから、全く肯綮を得ぬ。

コイシカハゴゼン 小石川御前 前田重教の女藤姫。高松侯徳川頼儀に嫁し、小石川御前と稱せられた。

コイシガミネ 基石ヶ峰 鹿島郡高島町の東南にある山。鹿島・羽咋二郡と越中國との境に在るから三方ヶ辻ともいふ。頂上に大石があつて、もと祈雨した所である。高さ四六一米。地質花崗閃緑岩。羽咋郡神子原から山頂まで四軒。

コイセ 小伊勢 ↓ライセ 小伊勢。
コイチナガマサ 小市永政 永政は通稱三郎右衛門。鏡象眼師で、寛永六年加賀藩の御細工者になつた。二代四郎三郎永重父に先だちて歿し、永政の甥彌左衛門永次入つて家を繼ぎ、その子彌左衛門永次四代となり、五代彌左衛門永次後を受けた。次いで養子豊次永次六代となり、その子豊平永光多病にして家業を繼ぐを得なかつたので、業系を勝尾文治永次に譲つた。

ゴイツコウ 御一行 藩侯が士に與へる知行の辭令書をいふので、古くは藩侯の花押があり、後には捺印があつた。これらは御判物又は御印物であるが、總稱して御一行といはれてゐた。御一行は書面一通の意味から轉じたのであらう。先祖代々の受けた御一行は、長方形の桐箱に收め、袋に入れて、屋内の最も見易い柱に吊して置いた。水火難に直に取出すことができる爲である。

コイツミ 小泉 鳳至郡三井郷に屬する部落。
コイツミカケスケ 小泉景祐 通稱新兵衛。定番御歩書寫役より、寛政九年新番に列し、文化六年新知八十石を得て組外に進み、十一年歿。子孫相繼いで藩に仕へる。

コイツミザキ 小泉崎 ↓コウジンバナ 荒神鼻。
コイツミシゲナガ 小泉重長 勘十郎と稱した。初め前田利常の老女に小泉十郎右衛門の遺子侍従といふものがあつて、富田小左衛